

財務 | eBook

財務と会計のための

Content Intelligence

ABBYY

目次

お金とその意義：財務と会計におけるRPA + Content Intelligence

RPAとは？

非構造化コンテンツのギャップを埋める

3種類の自動化レベルとビジネスバリューへの影響

財務と会計におけるContent Intelligence

ユースケース：請求書処理－購買から支払いまで

Content Intelligenceの優位性

ユースケース：注文書－注文から現金化まで

ユースケース：決算－記録から報告まで

他のユースケース

将来を見据える

始める準備はできましたか？

お金とその意義：

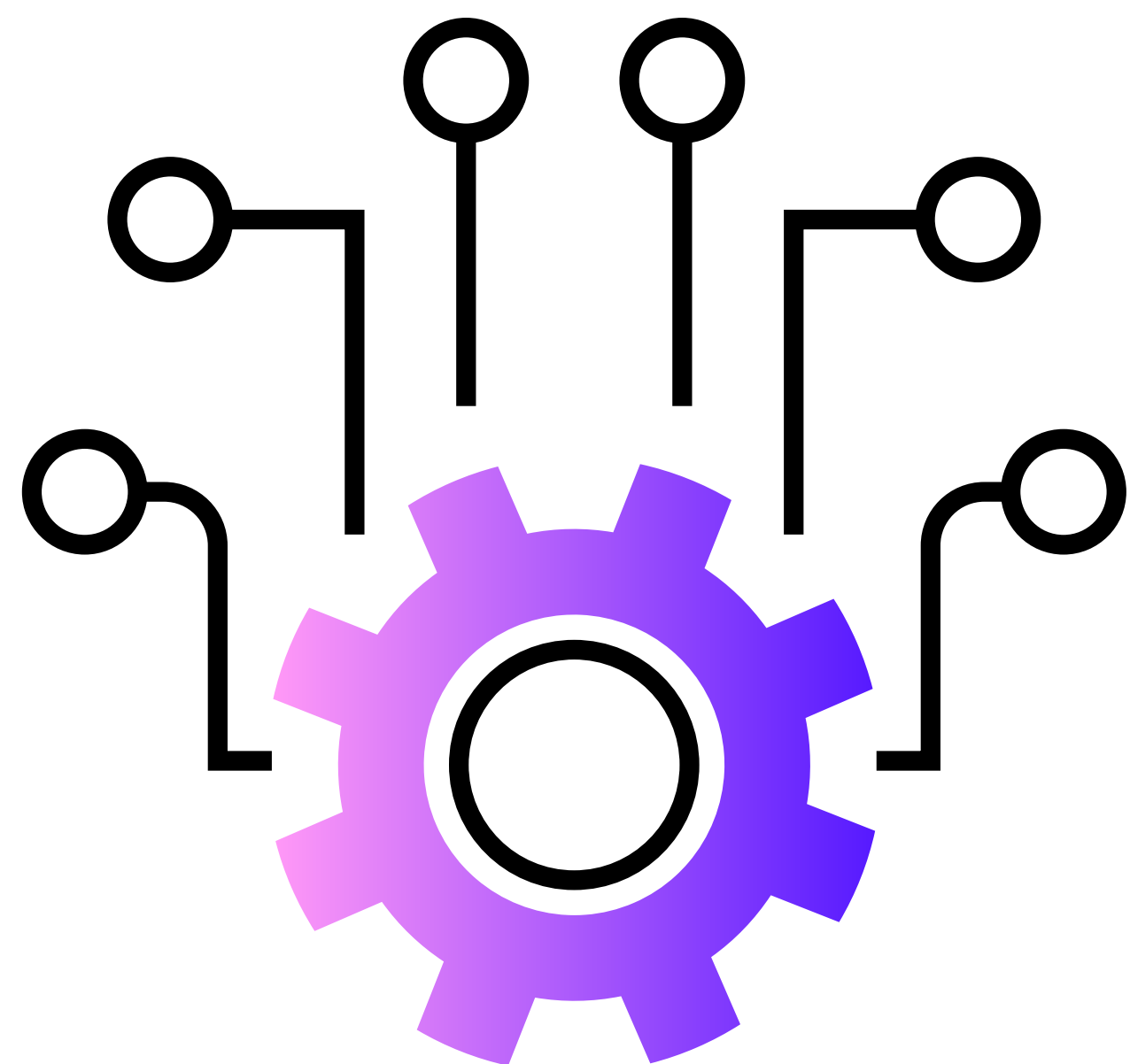
財務と会計におけるRPA + Content Intelligence

ヘルスケアから公益事業、製造業に至るまで、あらゆる業界の財務・会計責任者は、コスト削減、生産性向上、業務全体にわたる報告の改善と、かつてないほどのプレッシャーに直面しています。ERPシステムにより、企業は多数の財務・会計処理を自動化できますが、依然として定型業務の多くが、特にアプリケーション間の空白を埋める点においては、手作業で行われています。

多くの財務・経理部門では、サプライヤー、ベンダー、社内の業務部門から受け取る文書や画像の処理に加えて、アプリケーションやスプレッドシートなどデータソース間のデータ移動を手作業で行う、「回転椅子型業務」が残念ながら日常化しています。従業員が必死にモニター間を行き来し、ある場所でデータを取得し、別の場所を入力する様子や、メール文書から目視でデータを読み取り、手作業で処理システムに入力する様子を思い浮かべていただければお分かりになるでしょう。回転椅子型業務は、コストを押し上げ、生産性の妨げになり、人為的ミスリスクが高いにもかかわらず、費用対効果の高い代替案がないため、企業はこれまでずっとそうしてきました。

ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)は、企業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)戦略の鍵となる技術として浮上しており、企業はこれを利用して幅広い財務・会計処理の自動化を進められます。とはいえ、RPAだけでは不十分です。企業はRPAとContent Intelligenceプラットフォームのデータ変換機能を組み合わせたときに、自動化の可能性を最大限に引き出すことができます。





RPAとは？

RPAとは、ロボット制御のソフトウェア技術で、通常は手作業で行う定型業務を自動化することです。

ソフトウェア・ロボットは、アプリケーション間のデータ転送など、構造化されたルールベース処理を反復実行する「デジタル・ワークフォース」として機能し、人間の従業員は、カスタマーサービスのように批判的思考や個人的な対応を必要とする活動に集中できます。

RPAが理想的に適した業務は

- ルールベースの意思決定が中心
- 大量のデータ処理が必要
- ほとんど変動がない
- デジタルデータに対応している

コスト削減、納期短縮、品質確保を目指す企業にとって、RPAは理想的なソリューションとなります。

非構造化コンテンツのギャップを埋める

RPAは、生産性を向上させたい企業に、非常に大きなメリットをもたらしますが...

ロボットが扱える構造化されたデジタルデータがあればの話です。するとRPAの導入を検討している企業には、明らかに疑問が残ります。非構造化コンテンツはどうするのでしょうか？

RPA化に適した手作業の多くは、以下のようなコンテンツから、処理を行うため大量のデータを読み取り、分類、抽出するものです。

- PDF文書
- Eメール
- フォーム (帳票)
- 公式文書のスキャンなどの画像

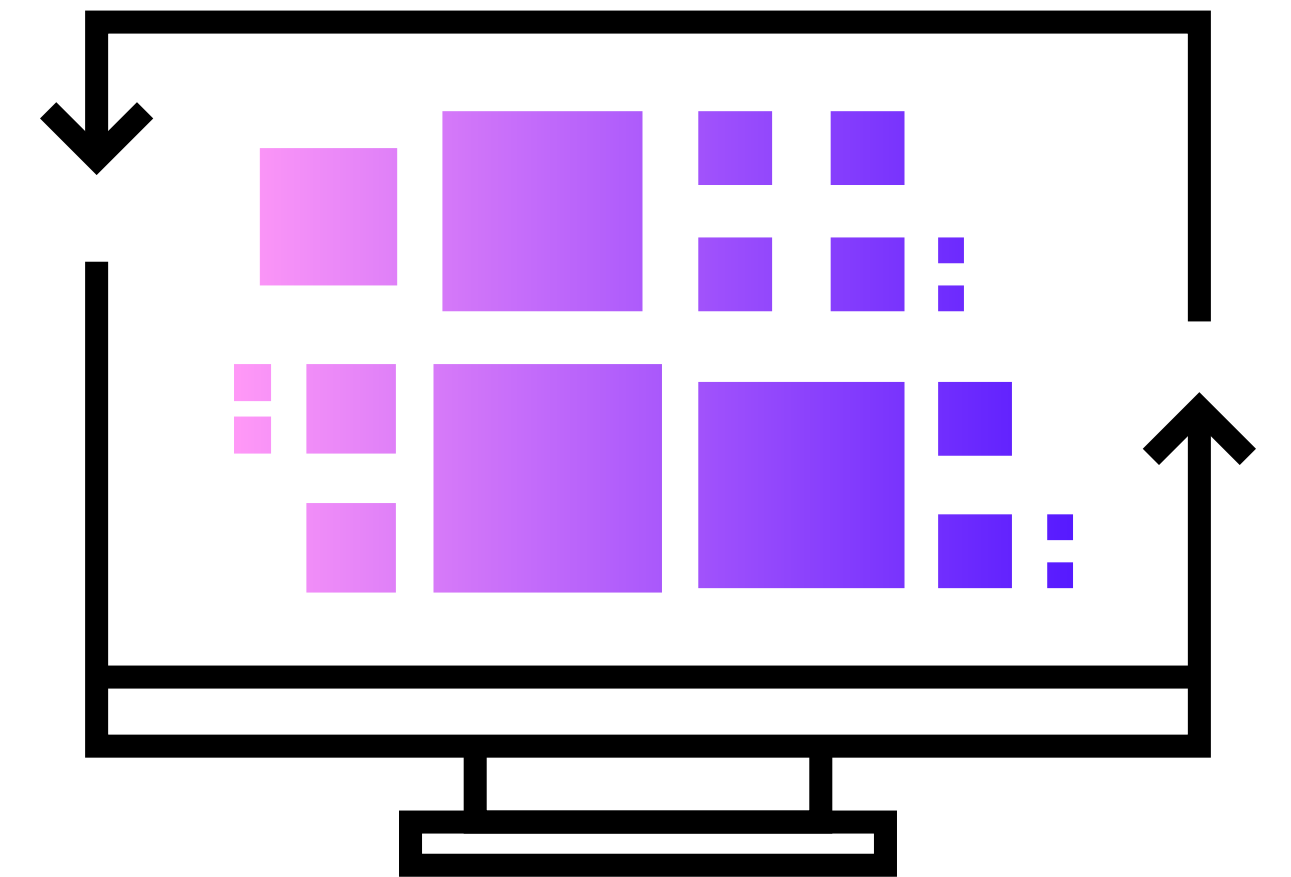


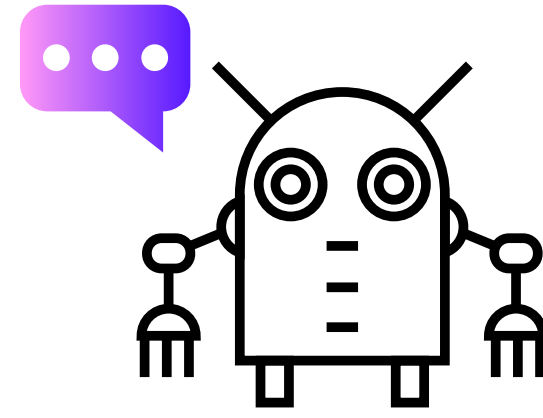
ソフトウェアロボットは、非構造化コンテンツから重要なデータを理解し抽出することができないため、企業は通常、人力に頼ってデータをデジタル形式へ変換しており、RPAが約束するコストや効率のメリットの多くが失われています。また、コンテンツ中心の処理を自動化するのを全くあきらめた企業は、自動化のメリットを価値の高いユースケースに広げることができません。

しかし、もっと良い方法があります。それが **Content Intelligence** です。

ABBYY Content Intelligenceソリューションは、ベーシックな自動化ロボットをはじめ、直感と問題解決がより関係した業務を自動化するカスタム設計ロボットに至るまで、RPAのあらゆるレベルで企業にメリットをもたらします。

ABBYY Content Intelligenceプラットフォームは、RPAのデジタルクラス3段階すべてを補完するものです。OCRと機械学習、ならびに自然言語処理(NLP)の技術を利用して、コンテンツの識別と分類、データと意味の抽出を行いつつ、人間のアウトプットから継続的に学習します。企業がRPAとContent Intelligenceを組み合わせると、より幅広い処理を自動化して、さらに大きな事業価値を生む新たな可能性が広がります。





RPA

デジタルデータを使用した人力処理の限界を克服

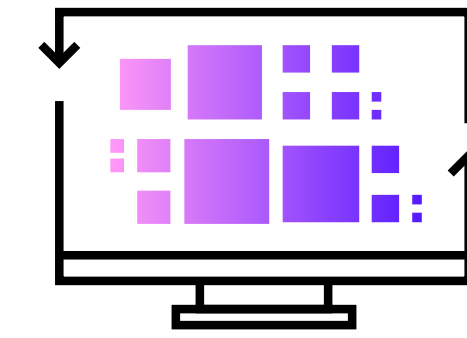
ユーザーのアクティビティを模倣

システム、スプレッドシート、データベースからの構造化データを処理

単純処理をルールベースで自動化することが可能

高い決定性

従業員がアシストする一般的なデジタルワーカー



Content Intelligence

非構造化コンテンツを取り込むことで、より広範囲のデータを処理

非構造化コンテンツを「理解」し処理することで、人間の思考過程を模倣

構造化、半構造化、非構造化コンテンツの処理で、より多くの情報に基づく意思決定に役立つ

文書の教師あり学習を活用することで、より複雑な処理の自動化が可能

機械学習の利用と同時に、人間の介入が必要な安全機構を組み込む

より幅広い情報を理解できる熟練したデジタルワーカー

3種類の自動化レベルとビジネスバリューへの影響

デジタルワーカー：よりスマートなロボットの構築



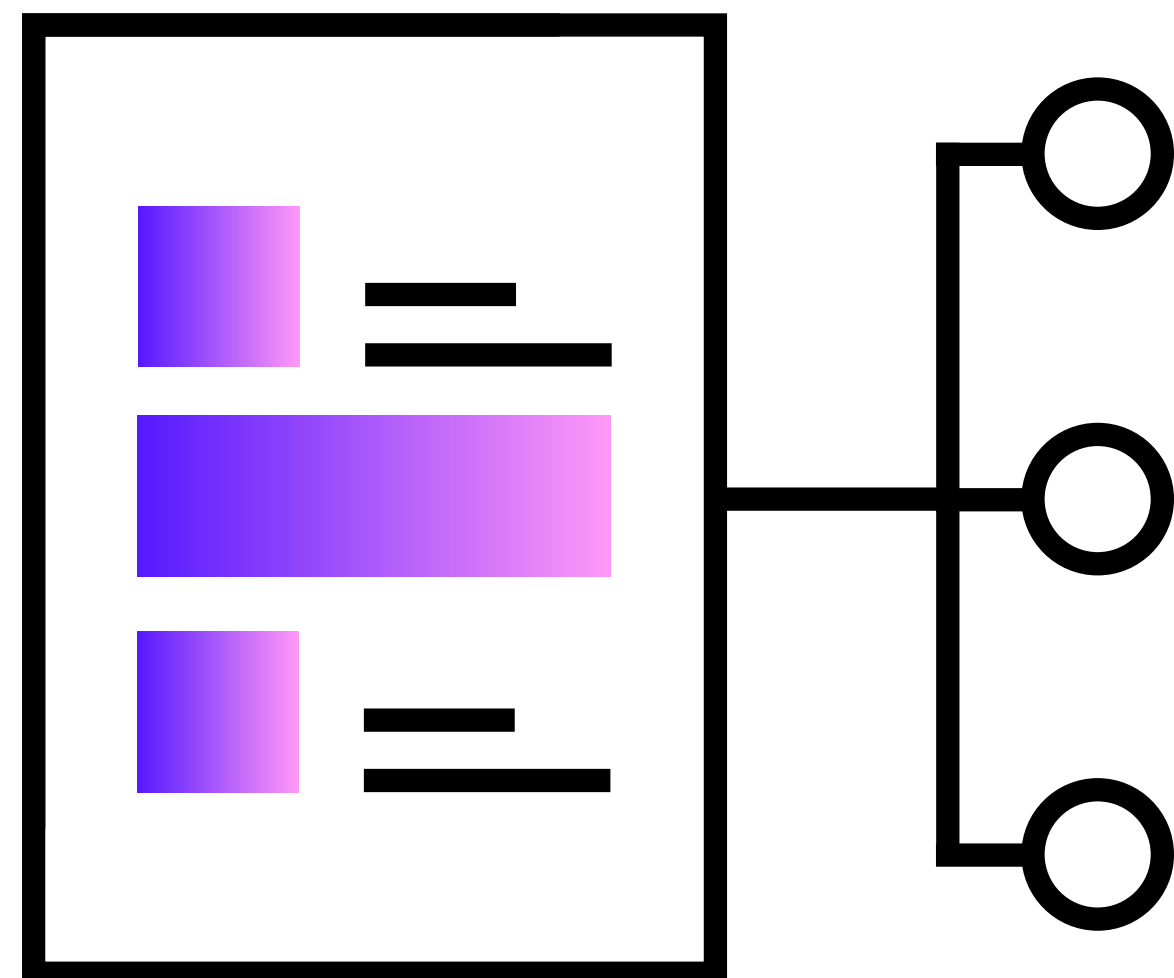


財務と会計における Content Intelligence

財務・会計業務は、ほとんど変動がないルールベースの処理が非常に多いため、ロボティック・プロセス・オートメーションを活用するのに最適です。

とはいえ、こうした処理の多くには、依然として半構造化文書や非構造化文書の分析が必要です。そのため、RPAとContent Intelligenceの組み合わせが、さまざまなユースケースでコストを削減し、生産性を向上させるのに理想的なソリューションとなります。

ユースケース： 請求書処理ー購買から支払いまで



自動化技術の進歩にもかかわらず、多くの企業ではいまだに請求書の処理で膨大な手作業に追われ、生産性を阻害する遅延や支払いエラーが起きています。

大半の企業では、ベンダーからの請求書が、紙の請求書、メール添付PDF、支払いポータルへのリンクなど、複数の経路から複数の形式で届きます。多くの支払勘定担当部門では、従業員が様々な経路から請求書を回収し、各請求書の詳細情報（未払い額、分類、請求書番号、注文書番号、ベンダー名など）を、ERPや会計システムに手入力する必要があります。注文書のある請求書の場合、支払い承認前に担当者が、注文書と請求書にある注文書番号を手作業で照合する必要があります。こうした時間のかかる処理では、必然的に人為的ミスリスクが高まります。請求書の支払いが遅れると、遅延損害金や利息が発生する可能性があります。また、不正確な支払いがベンダーに届いてから処理エラーが明らかになり、請求書进行处理し直す必要が生じる場合もあります。

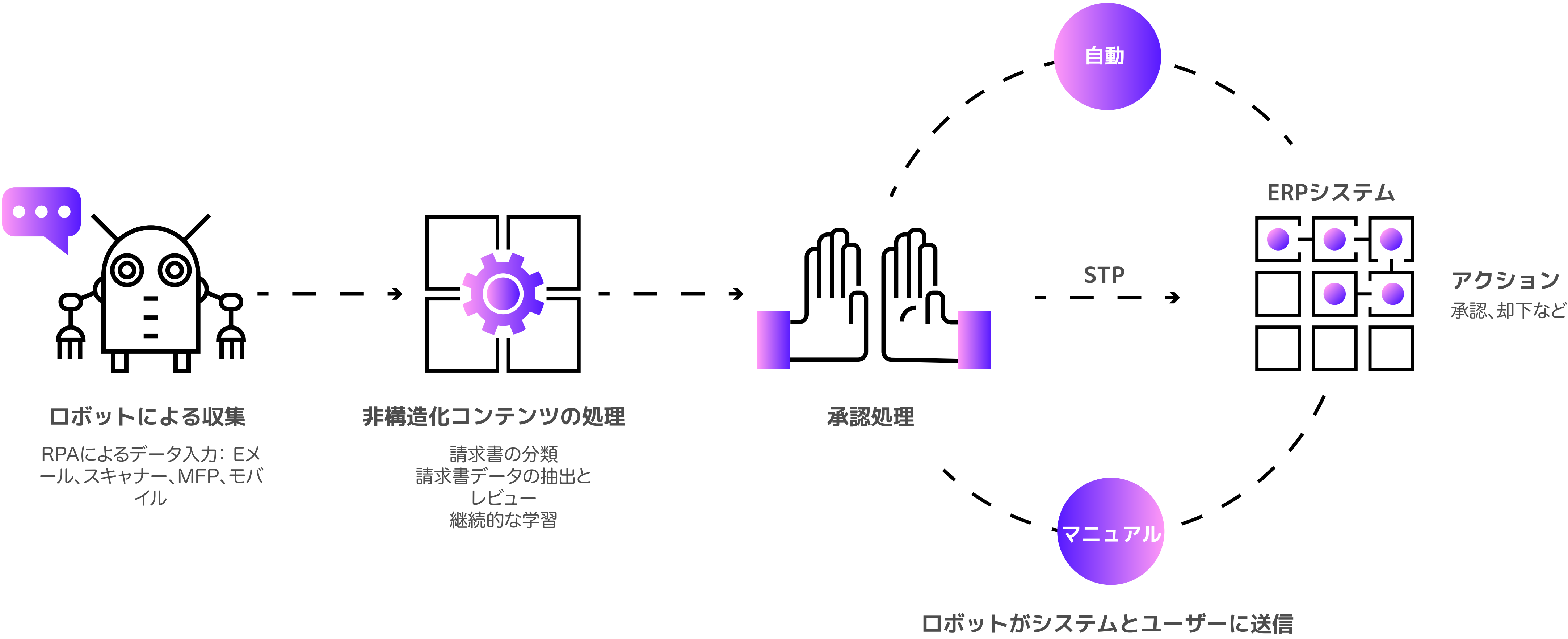
Content Intelligenceの優位性

請求書が半構造化や非構造化のコンテンツ（紙の請求書、PDF文書など）の形式で届く場合、手入力に人員が必要となり、RPAが約束する生産性と品質面でのメリットの多くが失われてしまいます。Content Intelligenceプラットフォームは、請求書の支払い関連項目を自動的に読み取り理解するので、データを構造化してソフトウェア・ロボットが使用できるようになり、手作業による処理の遅れやエラーのリスクを排除します。

なぜRPAなのか？

ロボティック・プロセス・オートメーションにより、支払勘定担当部門は、様々なソースからの構造化データを自動処理できます。例えば、ロボットがポータルから請求書データを取得し、情報を検証して、ERPシステムに入力します。検証を失敗した請求書は、例外処理のため担当者に送られます。

Content Intelligenceの優位性



ユースケース： 注文書ー注文から現金化まで

支払勘定と同様、注文書処理の自動化についても、多くの企業がその可能性に十分気づいてはいません。時間がかかり、人為的なミスが発生しやすい手作業による注文書の処理では、生産性が上がり、コストは増大し、利益率は低下します。

顧客からの注文は、PDF文書からスキャン画像、Excelファイル、Eメール連絡まで、さまざまな形式で届き、それを手入力しては、毎日何百、何千とある注文を処理するのに多大な時間がかかり、ミスのリスクも高くなります。注文を入力すると、通常は以下のような段階を踏む一連の処理が行われます。

- 1 注文された製品の在庫状況を確認
- 2 契約価格を確認
- 3 顧客の信用調査を実施
- 4 特有の納品指示を伝達

手作業による注文書処理では、重複注文、誤った価格設定、配送遅延や納品漏れ、注文の勝手による返品など、企業は多くのリスクを抱えることになります。

ミスや遅延はコストがかさむだけでなく、企業の評判や顧客との関係を大きく損なうことにもなりかねません。

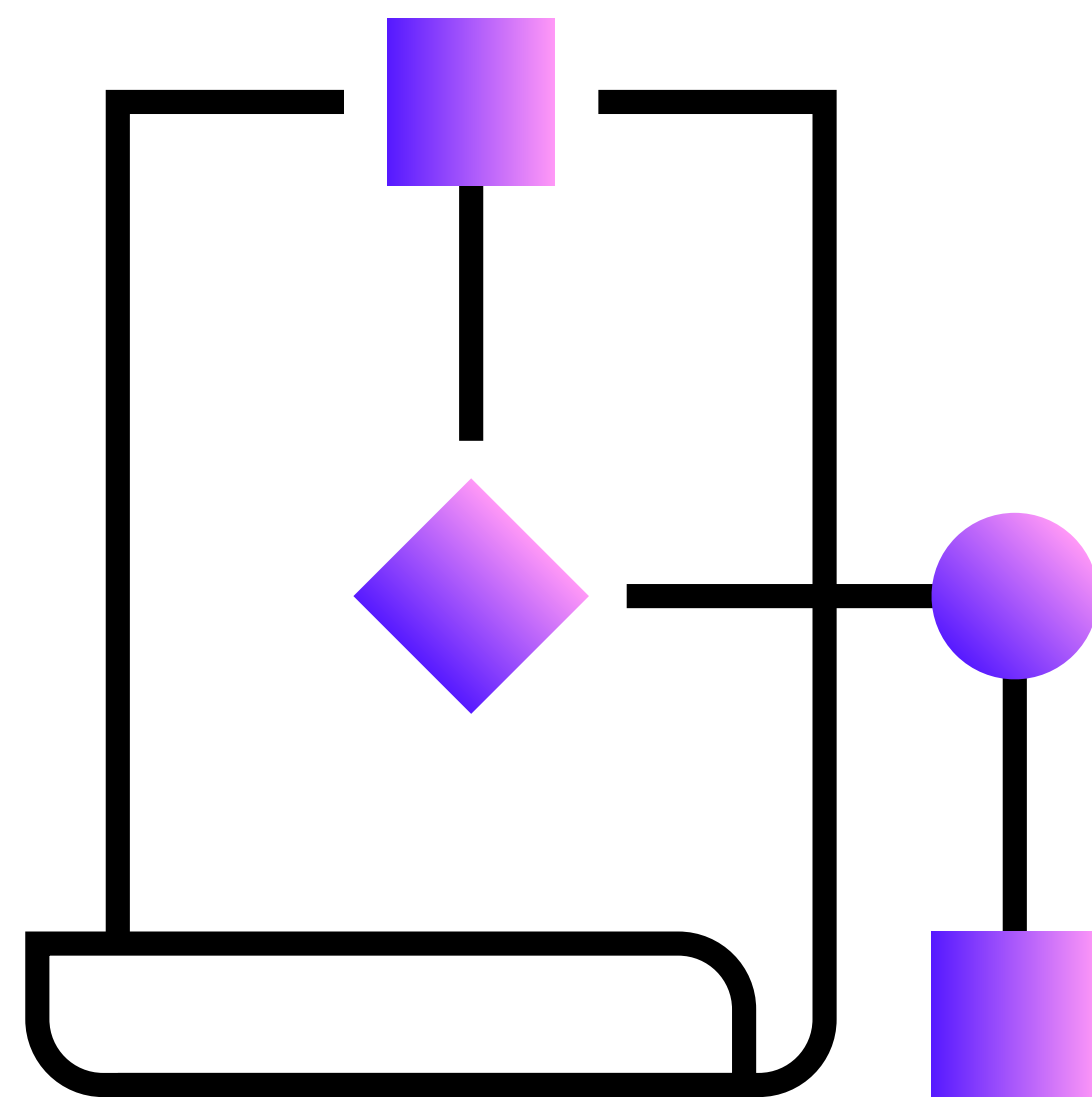
Content Intelligenceの優位性

Content Intelligenceにより企業は、非構造化コンテンツ（スキャン画像、ファックス、PDF文書、Eメールなど）から注文書情報を抽出し、それを構造化データに変換して、RPA処理に直接投入できるようになります。多国籍企業にとって、Content Intelligenceプラットフォームには、複数言語のコンテンツを理解し、処理できるという付加的な利点があります。

なぜRPAなのか？

ロボティック・プロセス・オートメーションにより企業は、各種経路からの注文書を受け付け、処理に関わるさまざまなタスクを自動実行できるようになります。RPAプラットフォームは、契約価格ルール適用、信用調査目的の注文と受注、在庫確認その他の業務を同時に行えるため、定型注文はほぼ即刻処理されて、人員は特別な注意を要する注文（価格設定の無視など）に集中できます。

ユースケース： 決算—記録から報告まで



手作業処理が多く、非効率性とリスクにつながる会計職能には、月次、四半期、年次の決算もあります。

こうした厳密なルーチンに関係した何十、あるいは何百とある個別業務は、大抵あちこちに分散したスプレッドシートや手書きのリストに記録されており、担当会計士の頭の中に入っているだけの場合すらあります。

処理の過程自体は十分に文書化されているとしても、アプリケーションからExcelスプレッドシート、紙の文書まで、膨大なリソースからデータを取り込む必要があります。このような退屈で時間のかかる仕事を楽しみにしている会計士はまずいません。それに違約金の負担につながる遅延やエラーのリスクで、多くのCFOが夜も眠れずにいます。

Content Intelligenceの優位性

決算に関わる情報の多くは、PDF、Eメール、スキャンした文書イメージなど、非構造化コンテンツの中に隠れています。Content Intelligenceソリューションは、財務書類をレビューし、決算処理関連のデータを特定し保存して、構造化データを、整理、分析、報告書作成のためRPA処理に直接投入できます。

なぜRPAなのか？

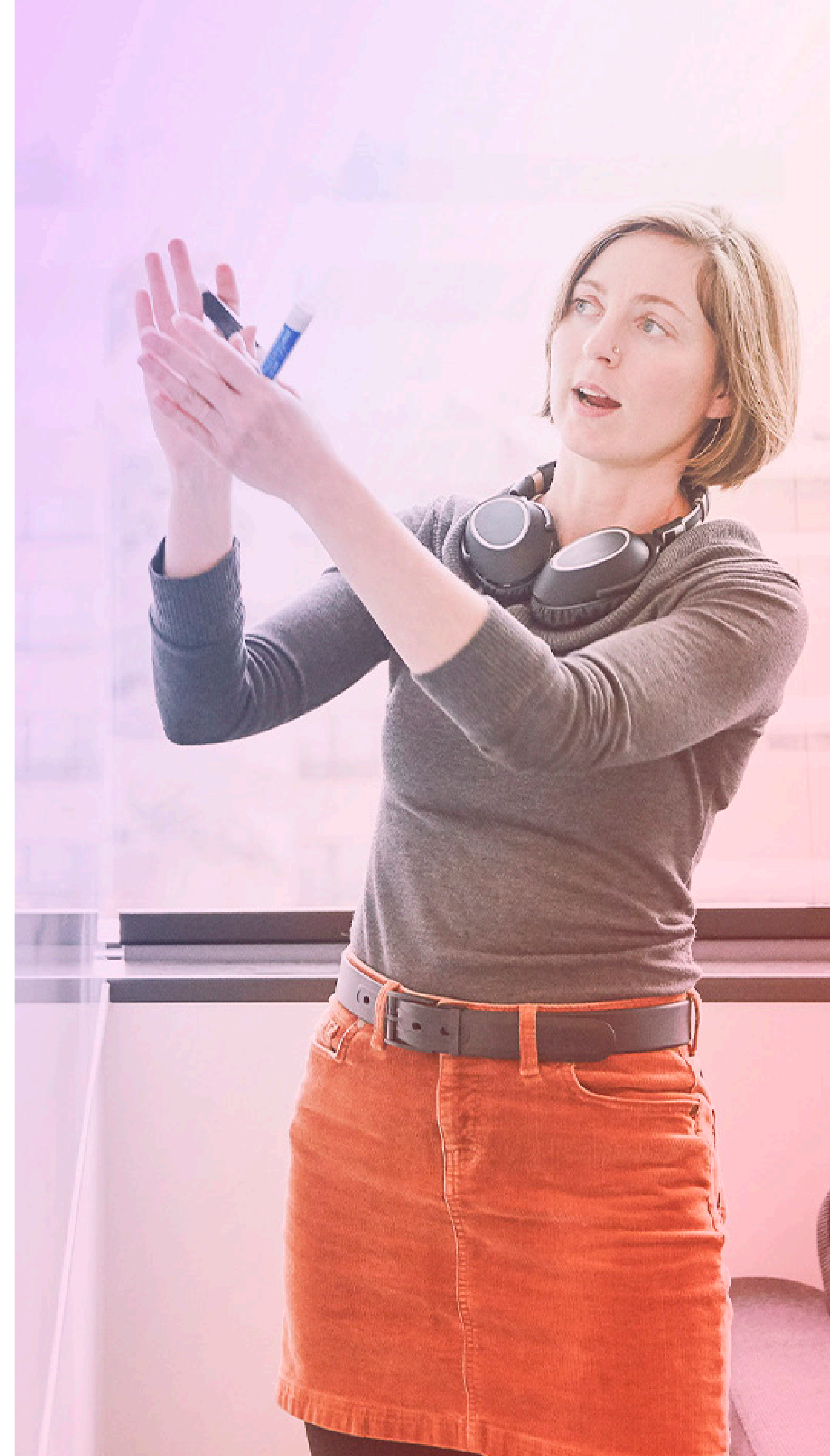
ロボティック・プロセス・オートメーションは、インテリジェントなワークフロー、事業ルールのプログラム化、トリガーとなる事象、処理のスケジューリングなどを組み合わせ活用し、決算処理の単調な手作業を大幅に削減します。財務チームがソフトウェア・ロボットを活用してできること：

- 組織全体からの情報を集約
- 残高照合
- 仕訳の提案と承認依頼
- トリガーを配置し、相互依存する業務を管理

他のユースケース

RPAとContent Intelligenceの魅力的な組み合わせは、他にも以下のような財務・会計業務のユースケースに幅広く利用できます。

- 1 現金取引処理
- 2 給与資金報告
- 3 給与資金調達
- 4 口座引落/資金調達の請求
- 5 電信送金依頼
- 6 追加証拠金の受領



将来を見据える

人件費の増加、予算の減少、法規制の強化に伴い、財務・会計組織には、遅いうえにコストがかさみ、エラーが発生しやすい手作業処理に追われている余裕などはありません。

ABBYYのContent Intelligenceとロボティック・プロセス・オートメーションを組み合わせると、企業は幅広い財務処理に関連した情報の理解と処理を自動化して、IT投資を最大限に活用できます。この組み合わせはRPAロボットをより賢くし、徹底した自動化を実現し、組織のDX戦略全体をサポートできます。



始める準備はできましたか？

ABBYYのContent Intelligence技術とソリューションは、最新のAI OCR、機械学習、自然言語処理、およびテキスト分析技術を活用して、非構造化コンテンツを構造化データに変換し、あらゆるRPAプラットフォームで使えるようにします。

ABBYY Vantage

企業向けの次世代Content Intelligenceプラットフォームであり、非構造化コンテンツを理解して意味付けするのに必要なスキルを備え、人間のような認知スキルを、ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)などのインテリジェントな自動化プラットフォームに与えるものです。

Vantageでは、AI機能の設定や配置に技術的な専門知識を必要としません。

ABBYY FlexiCapture

構造化、半構造化、非構造化コンテンツのデータをインテリジェントに分類、抽出することで、ロボティック・ビジネス・プロセスにインテリジェンスなAI OCR機能を加えます。

ABBYY FlexiCapture for Invoices

請求書データの取り込みを自動化する、すぐ使えるAI OCRソリューションです。

ABBYY

今すぐお問い合わせください

© 2021 ABBYY Production LLC. ABBYY, ABBYYロゴ、FlexiCapture、ABBYY Vantage は、ABBYY Software Ltdの登録商標または商標です。ここに記載されている他のすべての製品名、商標、登録商標は、各所有者に帰属します。#12621